

# 地元高校生に民泊提供

## 来月8、9日 1次産業を体験

### 食の絆を育む会

都会の高校生を農家や漁家で受け入れる農山漁村ホームステイ事業に取り組むNPO法人食の絆を育む会（浦幌町、近江正隆理事長）は、管内の高校生を対象としたホームステイ事業を本格的に始める。地元高校生にも食を支える十勝の第1次産業の大切さを伝える。



管内高校生向けのホームステイ事業をPRするポスター

農山漁村ホームステイ

は、農家や漁家の協力を受けて、大阪や東京の修学旅行生を受け入れる事業で、生産者の日常を体験してもらう。2010年にスタートし、これまでに1万7000人が参加した。

管外の高校生に生産現場への理解を広めている一方、受け入れに協力する生産者から「地元高校生も農業や漁業のことを知らない子が多い」という声や、管内の高校生からも参加を希望する話が寄せられている。

これまでも池田高校と

連携してホームステイ事業を行っていたが、今年からは対象を広げ、十勝管内の生徒から参加者を募る。

9月8、9の両日に実施する予定で10人程度を募集。酪農家3戸が受け入れ、作業や生産者の暮らしを体験する。

食の絆を育む会は「普段第1次産業に触れ合う機会が少ない子も多いと思う。地元の産業を知り、食と命に向き合う現場を体感してほしい。将来の生き方を考える機会にもなれば」としている。

参加希望者は、同会のホームページからダウンロードできる申請書を提出して申し込むこと。参加費は1500円。締め切りは今月13日。問い合わせは同会（015・578・7955）へ。

（伊藤亮太）